



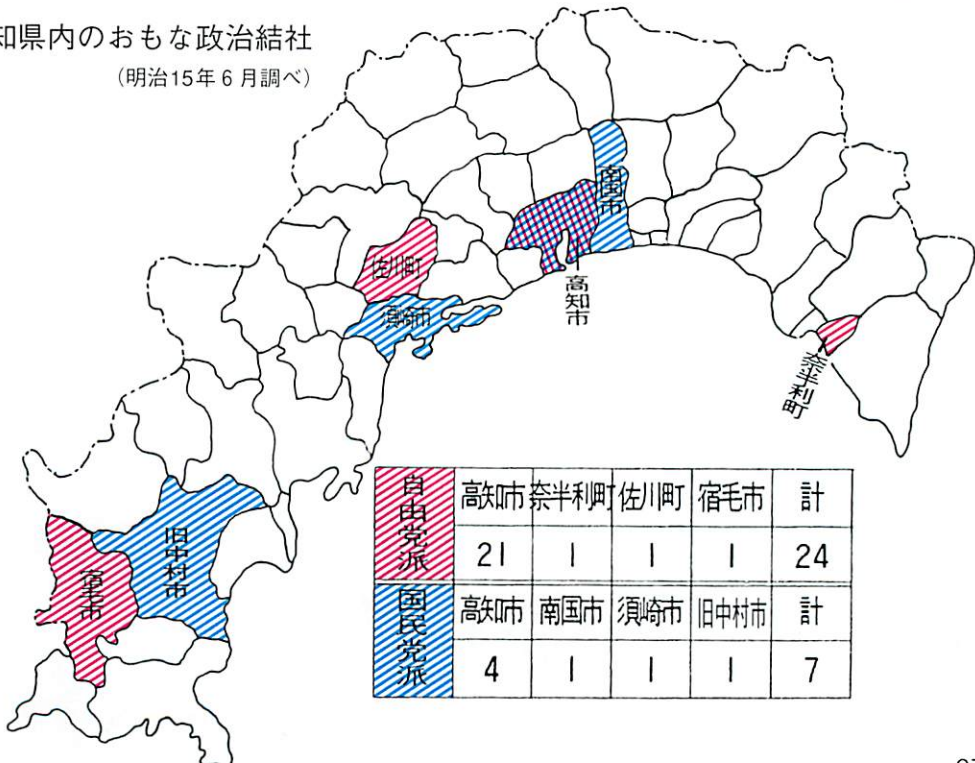
## 自由大懇親会<sup>こんしんかい</sup>

自由民権運動が高まってくると、県下各地で懇親会が行われた。会では、演説・旗うばいなどが行われ、「自由」の旗や結社名を書いた旗をもった人々が多数参加した。

政治を言論によってかえようとする自由民権運動は、高知はもとより、全国にひろがり、「自由は土佐の山間より出づ」といわれるほどになりました。

**南国市の自由民権運動** 県内では、自由民権を主張する自由党派と政府の考え方に同調する国民党派の政治結社ができました。

高知県内のおもな政治結社  
(明治15年6月調べ)





## 南国市内の民権結社

(南国市史より)

| 地 名 | 結 社 の 名 前   | 数 | 地 名 | 結 社 の 名 前   | 数  |
|-----|-------------|---|-----|-------------|----|
| 植 田 | 植 田 自 由 党   | 1 | 後 免 | 後免町平等団      | 1  |
| 久礼田 | 久 礼 田 倶 楽 部 | 1 | 立 田 | 立 田 同 志 会   | 1  |
| 長 岡 | 長 岡 土 民 会   | 4 | 里改田 | 里 改 田 見 光 社 | 1  |
|     | 長 岡 村 自 由   |   | 十 市 | 長岡十市南獄社     | 4  |
|     | 長岡自由倶楽部     |   |     | 〃 先 憂 会     |    |
|     | 長 岡 万 能 会   |   |     | 〃 突 進 会     |    |
| 岩 村 | 岩 村 倶 楽 部   | 3 | 合 計 | 〃 鳴 鵲 社     | 16 |
|     | 岩 村 壮 士 会   |   |     |             |    |
|     | 岩 村 金 地 部   |   |     |             |    |

自由民権運動の高まりで南国市でも運動を支持する人びとが市内のあちこちで結社をつくりました。<sup>(6)</sup>長岡十市南獄社・<sup>(6)</sup>後免町平等団・長岡村自由・<sup>(6)</sup>植田自由党などといったぐあいに20ちかくの結社が生まれました。

いっぽう、長岡の人で、土佐勤王党に入っていた池知退蔵<sup>(7)</sup>たちは、立田に嶺南社をおこし、自由党に対こうした考えを主張しました。

また、政府は、自由民権運動に対し、言論や集会をとりしめる法律をつくって運動をおさえつけたり、立志社などの自由党の人たちをたくさんとらえて罰したりしてとりつぶしにかかりました。

池知退蔵の記念碑（長岡三畠）

嶺南社香長学校の記念碑（立田永田）







板垣退助がさされた短刀

(自由民権記念館蔵)

されました。退助が犯人をにらんで「板垣死すとも自由は死せず」と鮮血にまみれながらさけんだ話は、大変有名です。

**国会が開かれる** もり上がる自由民権の声におされて、ついに「10年後に国会を開く」ことをやくそくした政府は、明治憲法を發布したよく年1890（明治23年）に国会を開きました

はじめての国会議員を選ぶ選挙では、高知県でも定員<sup>ていいん</sup>4人の全員が自由党の当選となり、全国でも自由党が圧勝<sup>あつしょう</sup>して第1党となりました。

第2回目の選挙の時には、大桶出身の武市安哉<sup>おおそね たけちやすや</sup>も自由党から立候

にしきえ そうなんのず  
錦絵「板垣遭難之図」(自由民権記念館蔵)





補し、同じく自由党員である永田出身の北村守之助や、大桶出身で、のちに貴族院議員となった関田可通らの応えんをうけて当選をはたしました。この時も、政府は自由党つぶしにやっきになりましたが、またしても自由党4名の全員が当選となりました。

武市安哉は、のちに国会議員をやめて、北海道の浦臼にわたり、開たくにつとめるようになりました。第1回目の移住者の中には十市や金地出身の人たちもいました。

武市安哉の像（大篠小学校）と碑（住吉野）



武市安哉は、「聖園農場」をその地につくろうとしましたが、とちゅう、病気でなくなりました。

大篠小学校は、1980（昭和55）年1月北海道樺戸郡の浦臼小学校と姉妹校になりました。

北村守之助の墓（立田）





- 注(1) 片岡健吉 (1843～1903) 高知市に生まれました。立志社の社長となって、自由民権運動を指導し、のちに、自由党をつくることにも力を入れました。高知県議会や衆議院の議長をつとめるなど、大へん活やくをしました。県庁にある議事堂前に銅像が建てられています。
- (2) 林 有造 (1842～1921) 宿毛市に生まれました。戊辰戦争に参加。あぶらとり一揆を兵をつかわずにしずめました。立志社をつくることに力を入れ、自由民権運動に活やくしました。国会議員として大臣をつとめ、やめてからは、ふるさとの発展に力をつくしました。
- (3) 植木枝盛 (1857～1892) 高知市に生まれました。21才で立志社に入り、自由民権の考え方を人びとに知らせました。1881年の夏のあらしの夜に自分の家で書いた憲法案は、今の日本国憲法のもとになっています。全国を演説してまわり、その回数は500回をじゅうぶんにこえると自伝に書いています。
- (4) 中江 兆民 (1847～1901) 高知市に生まれました。フランスでルソーの考え方を学び「東洋のルソー」とよばれています。自由民権運動の代表的な指導者の1人で、書くことを通して政府のやり方をはげしく批判しました。
- (5) 楠瀬喜多 (1836～1920) 高知市に生まれました。女性に参政権がないことをおかしいとして、男女同権のたたかいをはじめました。2年後の1880年に、全国で初めての婦人参政権が高知市で実現しました。女性ながら、くさがりがまの使い方は免許皆伝もので、さむらいたちと鏡川の河原で立ちまわりをしたことがあるそうです。
- (6) 結社 同じ目的をもつ人たちが集まってつくった組織・団体のこと。
- (7) 池知退蔵 (1831～1890) 南国市上末松に生まれました。土佐勤王党主武市瑞山がとらえられたとき、釈放するようにうったえました。戊辰戦争に参加。自由民権運動がおこると、それに対こうして嶺南社をつくり、教育に力をそそぎました。
- (8) 北村守之助 (1837～1919) 南国市永田に生まれました。剣道の上手な人で、戊辰戦争の際には板垣退助とともにたたかいました。武市安哉とともに、南国では中心的な自由黨員でした。選挙のおり、国民党の人たちからかたきのようにねらわれ、家におし入れられたとき、得意の剣をふるって応じ、相手をにげ帰らせました。
- (9) 関田可通 (1854～1909) 南国市大桶の関に生まれました。少年の時、たいこを打つ役目で戊辰戦争に参加しました。北村守之助とともに、政府の民権派つぶしにに対し当選させるために野市や立田の方で活やくをしました。貴族院議員は30年つとめました。
- (10) 聖園農場 武市安哉が北海道浦臼にわたった時に名づけた開拓地のことをいいます。安哉は、生活に苦しむ農民や形ばかりな民主主義の世の中のことを思い、本当に四民平等な理想の社会をつくろうと決心し、原野の開こんに身を投じました。浦臼町札の駅の近くには安哉たちの墓や聖園創始記念の碑が建てられています。

## 聖園創始記念之地

大篠小の子どもたちと  
(北海道浦臼)

